
全日本ST研究計画東大拠点におけるST実験

高瀬 雄一

東京大学

SNETタスク会合

核融合科学研究所

2007年3月9日

研究目的と実施の経緯

- 全日本ST研究プログラムでは、双方向型共同研究のもと、**全国的なST研究のネットワークを構築**し、超高ベータプラズマおよび超長時間運転に重点を置いた先駆的研究を推進する。東大拠点では合体による超高ベータプラズマ生成および高周波等による加熱・電流駆動研究を重点的に受け持つ。本課題では、核融合科学研究所が管理するスーパーSINETの**STネットワークの拠点を東大柏キャンパスに構築**する。これは東大柏キャンパスのTST-2やUTST装置の実験データ解析、遠隔実験参加のほか、他大学の装置を使った実験や計算を効率よく推進するために必要である。
- 日本の大学におけるトカマク研究は、特徴ある球状トカマクを使った独創的な研究を**全国的なネットワークとして推進**することとなり、核融合科学研究所双方向型共同研究の最初のプロジェクトとして支援されている。平成18年度には双方向型共同研究推進専門部会が発足し、その活動が開始されている。スーパーSINETのSTネットワークは、この活動を支えるインフラとして不可欠なものである。

成果

- 東京大学柏キャンパス内の物性研より、新領域創成科学研究科までスーパーSINETを延長し、東大柏キャンパスにSTネットワークの拠点を設立した(2006.11.20)。
 - － 東大柏キャンパスと核融合研間の接続は、別の共同研究で行ったLHD実験データの遠隔解析に既に活用している。
 - － 今後は他のSTネットワーク拠点である九州大学、京都大学、原子力機構などとも接続を行い、有効に活用していきたい。

